

# 令和4年度 後期学校評価 要旨

## □ Google Forms を利用しての回答に関わって… P.1,13,18 に関連内容

- とくに担任の回収作業が軽減され、集計も比較的短時間に行うことができた。(前期同様)
- 保護者アンケートの紙面による回答は、26名(前期46名)・全体の約10%に減少した。
- ▽保護者で二重回答が1件みられたが、回答内容に差異は認められなかった。(片方を削除)
- ▽生徒の補足質問(同内容)に対する記述回答数が減少した。[R3前450 → R4後196]  
(キーボード入力の困難さからか…)

## □ 教職員自己評価の考察に関わって… P.3~5,6 に関連内容

- 全25項目が、3.1以上のA判定となり、肯定的な回答も89%を上回る結果。  
[100%:16項目、92~96%:8項目、89%:1項目] ※概ね良好と判断
- ▼3.5未満の項目(※A判定ではあるが、やや低めであると判断)が11項目みられる。  
[3.4:6項目、3.3:1項目、3.2:3項目、3.1:1項目]
- ▼前期比で評価の低下した項目がみられる。  
[0.1向上:2項目、0.1低下:6項目、0.2低下:5項目、残りの12項目は同等]

## I 学校経営・組織・安全管理… P.3,6~7 に関連内容

- 7項目中4項目が肯定的回答率100%、2項目が96%、1項目が92%
- ②「教職員間の相互理解と協働的な教育活動」…3.4(やや低い)
  - 朝の打合せ削減 ■校務支援システムへの未適応 ■情報伝達の遅延 ■相互理解不足
  - 定期的な終礼の継続 □新校務支援システムへの早期適応 □運営委員会の設定日変更
  - 日常の会話(報告・連絡・相談など)の充実とマナー・気配り
- ⑤「個人情報適切な管理・保護」…3.3前期比0.2↓
  - 管理に対する認識に個人差 ■管理場所の不徹底
  - 全職員の意識向上 □管理場所の確保と改善 □資料等のデータ化 □生徒の入室制限
- ⑦「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」…3.2前期比0.1↑
  - 校務支援システムへの未適応 ■業務の加重(個人にもよる) ■部活指導の負担
  - 校務支援システムへの早期適応とICT活用の継続(音声ガイドス・欠席連絡フォーム・連絡メールなど)
  - 勤務時間への意識高揚 □会議等の精選や運営方法の工夫 □部活動の地域移行も含め  
県教委・市教委、および地域との連携(業務削減・精選に向けた要望など)

## II 教育課程・学習指導… P.3,7 に関連内容

- 4項目中2項目が肯定的回答率100%、1項目が96%、1項目が93%
- ⑪「GIGAスクール構想実現に向けた端末の積極的利用」…3.4同前期
  - 行事等のリモート開催をはじめ、多くの教職員が日常の授業の中で端末を活用している一方、機器の取扱いを苦手としたり、準備に時間を割けない教職員も一定数みられる。
  - 活用に堪能な職員も複数いるため、互いに授業を見合うなどして教え合い・学び合う
  - 特別教室や体育館への通信環境設定、休日の端末制限について、市教委に要望

## III 生徒指導・教育相談・特別支援教育… P.4,7 に関連内容

- 7項目中6項目が肯定的回答率100%、1項目が96%
- ⑬「いじめの早期発見・早期解決に向けた取り組み」…3.5前期比0.2↓

■対応の一部に長期化がみられることもその一因か

□個の特性や家庭事情も関係するため、根気よく対応する必要性も

16 「師弟同行の実践と生徒の模範・理解者・支援者」・17 「不登校傾向の生徒支援」・18 「特別支援教育についての共通理解」…3.4 同前期

□不登校傾向にある生徒は、継続的に各学級担任を中心に丁寧に対応しているが、今後も保健室における支援やSCによる助言、また外部機関への支援要請や必要に応じてはフリースクール等への通所も選択肢に含め、個に応じた柔軟性のある対応を職員全体で共通理解して進める。現在、WING教室に2名（検討中や中断の生徒を除く）が通所

□特別支援教育に関わっては、通常学級内にも様々な特性を抱えた生徒が複数みられる。学年職員や支援担当職員を中心に対応しているが、学年内だけでは人的に困難な場面もみられる為、管理職も含め巡回しながら臨時的に対応している。必要に応じては、全校体制で関わられるような調整を図る。また、計画的に実施された校内支援委員会を通じて得られた方策や共通理解をもとに、全職員一丸となりチームとしての取り組みを充実させていく。

○記述回答に「もっと生徒と関わりたいが、授業時数の多さや問題を抱える生徒への対応により困難になっている」旨の指摘がみられる。今年度、教科によっては予定した配置がなされず負担増となっているところもある。I7 「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」と関連させて対応していく必要がある。

#### IV 特別活動… P.4、7～8 に関連内容

4項目中2項目が肯定的回答率100%、1項目が92%、1項目が89%

19 「学校行事や生徒会活動等の取り組み」…3.4 前期比0.2↓

■コロナの影響が継続、リモートでの開催や内容縮小による時短等といった制限

○記述回答に指摘されている「校則の改正」についても、生徒会活動の一環として学校サイドと調整が図れるように進められると良い。

○将来を見通して部活動が地域移行された際、生徒会活動の主軸は委員会活動が考えられる。定例化するなどして、より生徒が主体的に取り組めるような体制づくりが望まれる。

21 「合唱活動の推進」…3.2 同前期

■日常の学校生活における合唱活動は、マスク着用をはじめ活動場所等が限定され、結果として「計画的・効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役だっている」とまではたどり着けないのが現状であろう。

22 「あいさつができる生徒の育成」…3.1 前期比0.2↓／肯定的回答率89%（全項目中最低）

■生徒アンケートによると、あいさつに関して特段に低下した自覚は認められないが、経年的な判断を伴う教職員の視点では、低下傾向が認められると推測される。

□コロナの感染状況にも左右される部分ではあるが、生徒会活動（委員会活動）を通じて、生徒が主体的に取り組める活動を仕組めると良い。

#### V 保護者・地域連携… P.4、8 に関連内容2項目とも肯定的回答率100%

23 「保護者との相互理解と連携」…3.6 同前期

24 「情報提供」…3.6 前期比0.1↓

#### VI その他… P.5、8 に関連内容

25 「小中一貫教育の推進」…3.2 前期比0.1↓／肯定的回答率92%

○諸事情により、専門部会が予定どおり実施できていないことが一番の要因かと思われる。記述回答の内容も踏まえ、今後の各部会で具体的内容を明確にし、次年度につなげていく。

□後期生徒・保護者アンケートのまとめに関わって… P.9～18に関連内容

**生徒アンケート**…携帯電話関連項目以外の23項目中21項目はAの判定。前期比で数値の向上した項目は10項目(3年生では15項目)あり、低下した項目は2項目のみであった。

10「家庭・地域でのあいさつ」・12「公共物の扱い」・13「心身の健康・安全」・18「いじめのない生活」・21「生徒会活動」に関わる項目については、3.7以上と高めの評価となった。一方、4「自宅での読書状況」は2.4でC、5「テレビやスマホなどのけじめ」は2.9でBの判定であった。

「携帯電話の所持率」は、89%と前期の数値から4%ほど増加し、「使用に関するルールづくり」については、作成率70%と前期と同様の数値であった

**保護者アンケート**…携帯電話関連項目以外の21項目中15項目はAの判定。

前期比で数値の向上した項目は8項目あり、低下した項目は3項目であった。

2「授業の理解」は2.7・4「テレビやスマホなどのけじめ」は2.5・5「家庭学習の状況」は2.9・6「家での整理整頓」は2.9・15「授業の分からない生徒への配慮」は2.8で、いずれもB、3「自宅での読書状況」は2.1のC判定であった。

1「学校が楽しい」・2「授業の理解」の項目は、前期比で0.1ポイント低下したものの、生徒アンケートでは逆に向上しており、両者には認識の差異がみられる。